

第4学年 国語科指導案

平成30年6月20日（月）4校時

4年生教室 高橋 由紀子

1 単元名 人物の変化をとらえて 「走れ」

2 単元の目標

中心となる人物の気持ちの変化をとその理由について考えて読み、感想を手紙に書いて表現することができる。

3 学級の実態

本学級の児童は、QUテストの結果からも、学級への満足度や友だち関係に満足している児童が多い。NRTの学力偏差値は、全国平均を上回っていて、特に国語は、学力の定着は良好である。個人差は少し見られるものの、読書を好む児童が多く、登場人物の気持ちを読み取ったり、想像したりすることは、比較的得意である。本教材も、既に家庭で読んでいる児童がほとんどで、内容に関する理解は、ある程度できているため、気持ちの変化をつかみ、登場人物に手紙を書く活動に意欲的に取り組めると考える。

4 学習指導計画（総時数 10時間）

時	主な学習内容
1	1 登場人物に手紙を書くという学習課題を知り、学習の見通しを立てる。
2～8 7/10 (本時)	2 場面ごとに起きた出来事確かめ、それぞれの場面での中心となる人物の気持ちを考え、変化を読み取る。
9・10	3 読み取ったことをもとに登場人物に手紙を書く。 4 書いた手紙を読み合い、感想を交流する。

5 研究主題を受けて

(1) つけたい力

- ・物語の中で起こる中心となる人物の気持ちの変化とその理由を想像しながら読む力
- ・登場人物の気持ちを想像して自分の言葉で表現する力

(2) 主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

○主体的な学びのために

登場人物の会話や行動に着目させ、文章の中の言葉を抜き出し、その言葉から分かる気持ちを整理していくことで、中心人物の気持ちの変化を捉えることができる。

○対話的な学びのために

児童にとって身近な内容であり、自分の体験と関連づけて読み進めることができるため、根拠(叙

述)と理由を明確にして、ペア・全体での話し合いがすすめられるようにする。また、考えを伝え合う中で、一人一人の感じ方の違いにも気づかせたい。

○深い学びのために

場面と場面とを関連づけて変化を読み取り、「どこで」「どのように」気持ちが大きく変化したかを考えさせるだけでなく、「なぜ」変化したのか理由を考えることで、走ることに對する気持ちの変化と家族に対する気持ちの変化との関わりも読み取らせるようにする。

6 本時の目標と評価

【目標】 ○中心となる人物の気持ちが、どこでどのように変わったか考えて読むことができる [読む]

【評価】 ○中心となる人物の気持ちがどこでどのように変わったかを考えながら読んでいる。

[発表・ワークシート]

7 本時の研究の視点と手立て

視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

① 主体的な学びにつながる「めあて」「まとめ」の設定

登場人物に宛てた手紙を書くという言語活動につなげるため、単元を通して「言いたいこと」をノートに書く活動を学習のまとめの段階に位置づける。本時で学習した内容や活動の振り返りにも有効であるとする。

視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

① 互いが高まる伝え合う活動の工夫

一人一人がまとめたワークシートをもとに、ペアで話し合い、新たなワークシートにまとめ黒板に貼る。ワークシートの内容を読み合いながら、似ている考え、違う考えとお互いの考えを理解するためのフリートークの時間を位置づける。発表する側・聞く側に分かれず、より対話的な学びにつながる活動であるとする。児童の実態からも、伝え合う場面でのフリートークを、単元を通して経験していくことで、より主体的で対話的な伝え合う活動となることが予想される。

視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

① 深い学びにつながるワークシートの活用

着目させたいセンテンスを教科書から見つけワークシートに書き込むことで、中心人物の気持ちの変化を自然とつかむことができる。キーワードになかなか気づかない児童にも穴埋め式のワークシートは有効だと考える。さらに、ペアでの話し合いが、短時間でスムーズに進むよう内容を精選し、新たに二人でまとめるワークシートを準備する。個人で取り組むものと二人で考えをまとめるためのものと2種類のワークシートにより、深い学びにつながるよう工夫した。